

私は5月31日からの4週間、内科でクリニカルクラクシップⅡの実習生としてお世話になりました。6年次の実習先の1つとして三沢病院内科を選んだきっかけとなったのは、5年次夏休みに行った三沢病院内科の病院見学です。大学の先輩であった研修医の先生が外来での新患・再来診察を行う姿を目にしたのですが、6年次の実習では同様の事を学生にも任せていると指導医の星先生から説明を受けたことが強く印象に残り、実習を希望しました。

三沢病院内科の実習の特徴は、学生が受け持った新患の医療面接、身体診察、さらに検査オーダー案の作成、処方案の作成を行い、指導医のチェックを



もらえればそのまま検査や処方が行われるという、部分的ではない参加型実習となっていることにあります。外来で指導医の後ろに立って見学することで得られる知識はもちろんありますが、実際に自分が椅子に座り患者さんに医療面接をすることで初めて自分の持つ知識の範囲に気付いて適切に学習できるのだと思います。大学のOSCEで学んだ医療面接の系統的質問はあくまでも叩き台であり、新患診察の現場では目の前の患者さんの主訴を基にして疑われる重要な疾患を rule in / rule out できる質問ができなければなりません。自分の質問には何が足りなかったか、どのような聞き方をすればよかったか、重要な疾患は一通り鑑別に挙げる事が出来たか、などを毎日反省し復習していました。復習の甲斐あって、実習の前半では覚えていなかったことが実習後半には知識として扱うことができるようになっており、星先生が何度も教えて下さった「研修は今自身ができないことに気付いて修正し、次できるようにすることが目的である」「知識が身についているということは、自分で実行できるだけでなく他の人に教えることができる状態である」という2点を実感できました。これらの考え方を今後の研修においても自己評価に用いていきたいと思っています。

学生に裁量を与える実習をさせることはスタッフの負担や先生の責任が増えることを意味します。それにも関わらず、内科外来でお世話になった看護師さんは誰もが丁寧に接して下さいましたし、他科の外来見学をした際にも先生方、スタッフの皆さんは優しく指導して下さいました。患者さんも誰一人として学生である事を名乗っても嫌な顔をせず診察させて頂きました。一人ではまだ戦力には慣れない私ですが、この恩を返せるようにこれからも勉強に励もうと思います。4週間大変お世話になりました。ありがとうございました。

2021.5.31～2021.6.25